

「災害死ゼロのまち」を目指して①

問い合わせ 総務課 ☎ 2119

一昨年、広島市で発生した土砂災害では、75人もの尊い命が失われる甚大な被害をもたらしました。再び、このような被害を発生させないために、今年度から県が「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動の特徴は、自分の命は自分で守る「自助」と、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」に特化したことです。

目指すべき姿は「一人一人があらゆる自然災害から、命を守るために適切な行動をとることができる」ようになり、「災害死をゼロにすること」としています。

この目的達成のために、5つの「行動目標」が定められています。

災害から命を守るための行動

①知る ②察知する ③行動する

普段から災害に備えるための行動

④学ぶ ⑤備える

災害から命を守るための行動「知る」「察知する」「行動する」とは

①知る

身の周りの災害危険箇所や災害時の避難場所を把握しておきましょう。

自宅付近や通勤・通学路などで、土砂災害や浸水の危険性のある場所、また、いざというときの避難場所や避難経路を把握しておくことは、災害発生時の迅速で安全な避難行動につながります。今一度、確認しておきましょう。

②察知する

災害から命を守るために、危険を知らせる気象情報や避難情報などを自ら積極的に確認するようにしましょう。

災害発生時、適切に判断し行動するには、災害の危険性がどこまで迫っているかを、あらかじめ「察知」しておかなくてはなりません。

気象情報や防災情報の意味や、災害発生の前触れを知っておけば、冷静な行動につながります。また、情報は自ら取ることを考え、どこからどのような情報入手するのかも、事前に把握しておきましょう。

市では、平成27年7月1日から「大竹市防災情報等メールサービス」の配信を開始しました。このメールサービスに登録すると、市の防災情報や気象情報、防災行政無線の放送内容や、お使いの携帯電話やパソコンなどで受け取ることができます。登録方法は市ホームページなどに掲載しています。ぜひ、災害時の情報収集手段の1つとして、ご活用ください。



次号では、普段から災害に備えるための行動である「学ぶ」「備える」についてお話します。

③行動する

災害から命を守るために自ら判断して適切に行動しましょう。

避難勧告などが発令された場合に限らず、自らが判断して、早め早めの避難行動をとることは、命を守る上で重要なことです。また、外の状況が既に危険な場合など、避難場所へ行くために外に出ることが危険な場合があります。そういう場合は、建物の上階の安全側（がけの反対側）への移動など屋内に留まる「屋内安全確保」を選択してください。状況に応じた適切な行動をとれるようにしましょう。

これらの事柄を理解し、正しく実践するためには、普段から災害に備えるための行動である「学ぶ」「備える」の2つも重要になってきます。

